

男女がともに 輝くために

美浦村男女共同参画
～共に輝くみほの会～

問合せ 企画財政課
☎029-885-0340(内)209

新たな出会い

遠井 宮子

「共に輝くみほの会」の前身である「女性行政推進協議会」が発足して四半世紀以上が経ちました。

発足当時は「家事や育児は女性の仕事」という考え方が一般的でしたが、そうした風潮の中でも共働き家庭が徐々に増加してきました。

そうした現状を受け、同会では『男女共同参画の観点から家族の在り方を提唱している』と、手作りのペープサート（紙人形劇）による啓発活動を行っていました。一例として、「子どもを産んだら女性の仕事は辞め、家事や育児に専念する」という考えの祖

父母世代と、「生活設計や仕事へのやりがいから、女性も仕事を続けていきたい」と思う若い夫婦がぶつかり合います。

「男だから・女だから、という定義が変わりつつある時代でした。」

そして現在は、夫婦共働きが当たり前となり、家事や育児の分担化も進んでいます。

最近、講演会やドキュメンタリー映画、イベント等に誘われて参加する機会がありました。

もし、声をかけてもらっていなかったら出会うことがなかった人たちが、そこにいました。

とある講演会では、参加者が3〜4人にわかれ、お互いの話を聞くというプログラムが行われました。

そこでは、40代の共働き家庭の男性2人から家事を積極的にやっている話を伺いました。私の知り合いにも、家事や育児を共にしている夫婦がおり、その様子を聞いていたので嬉しくなりました。

とある上映会では、助産院で子どもを産むというドキュメンタリー映画を観ました。

少子化の問題がある中で、子どもを産む「場所の選択」とは、単なる場所の選び方ではなく、「安心して子どもを産み育てるための、自由であり権利」でもあるのだなと思いました。

上映後は、感想を言い合い、また、自身の出産体験を語られた方もおり、食事を取りながらそれぞれの思いを交わした楽しい時間となりました。

これからも新たな出会いを求めて、いろいろな場に参加していきたいと思っています。

これから新たな出会いを求めて、いろいろな場に参加していきたいと思っています。

私たちと一緒に 活動しませんか？

美浦村男女共同参画「共に輝くみほの会」では、活動を共にできる会員を男女問わず募集しています。どうぞお気軽にお声かけください。

■ 問合せ 企画財政課



みほ文芸

正調俚謡 日和吟社 宇結比「満・月」

朝のペランダくしゃみをひとつ空に消えそな白い月集う喜びみんなの笑顔月に一度の俚謡会

月を見てると心はいつもロマンチストになれる僕縁結んだ人生行路共に支えて満ちる幸

少し二人で道草したい味方するよな冴えた月夜空満月湖面に映し寄せるさざ波金の道

月を肴に一献させば陸平のひとこまなつかしむ派手は好まず不満も言わず陰の役者で生きた母

不満不平はおなかに納め笑顔口角上げて行こ月に一度の俚謡会だけが唯一我が身の社交の場

添えぬ二人の最後のデート月もおぼろな十三夜豪雨続きで月光見ずに俚謡作りに四苦八苦

彼岸迎えて台風豪雨月も見守る印旛沼君に出合えて紡いだ月日生きた証の想い満つ

秋の長雨寸時の月の癒し励みの締め切り日虫の奏でに心が満ちる秋の風情に浸る幸

私しや毎日不満を隠し夫に三度の飯を盛る秋は来たけど名月どこに虫も私も観る夜空

十月の俳句（題 当季雑詠）

ひぐらしの日暮しないて日が暮れる

長雨の田んぼに咲いたそばの花

餌求め驚がむれとぶ刈田かな

長雨で爽やかな秋を待ちにけり

泥流が巨木根こそぎ敬老日

赤い羽根募金に託す小さき愛

老いてなお前へ前へと秋桜

核ゴミの調査受け入れ稲光る

除草剤撒かれし庭に彼岸花

雨だれは憎の木魚や秋彼岸

旅の秋「歳忘るな」と持病出る

五十音順

石戸 律華

伊藤 葉子

井戸 賀蔵道

上野 八千代

小川 野蛙

小園 江久美

門脇 悠美

篠原 美千代

関根 秀子

高橋 一步

田島 草実

塚本 夏雲

沼寄 朋香

長谷川 悦子

増尾 青蓮

山岡 亜子

山崎 笑子

山崎 泰弘

五十音順

市川 紀行

海道 民子

新宮 和子

高柳 幸子

田島 早苗

中島 輝子

長田 敏笑

増尾 尚子

松葉 統子

村崎 典子

山口 美代子